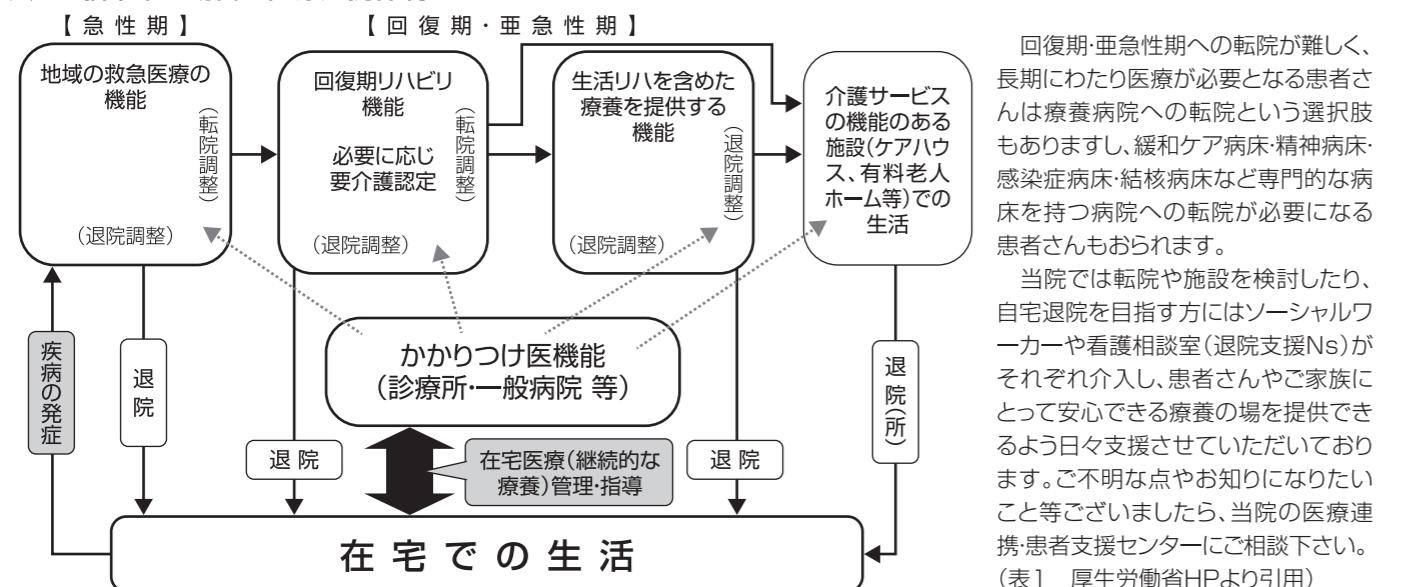


~安全・安心で質の高い医療を受けるために~

医療連携・患者支援センター 山下 祐理子

病気や怪我をして入院し、ある程度治療のめどが立つと、医師から転院の話をされることがあるかと思います。初めて入院された患者さんやご家族は、急に転院と言われても“まだ家に帰れるような状況ではないのに…”“誰に相談すればいいのだろう…”こんな思いを抱かれた方もいらっしゃると思います。病院と一言で言っても、病院にはそれぞれ役割があり、その方の病状に合わせて適切な病院への転院が必要になります。転院後、自宅に帰る為の準備をしたり、施設を検討したりしながらサービスが切れ目なく提供されるような連携体制を構築しています。転院の流れについて大まかに表すと下記表1のようになります、当院は一番左の【急性期】に該当します。

表1 脳卒中の場合の医療連携体制のイメージ



外来受診のご案内

- 開院時間 8:10
- 受付時間 初診 8:30~11:00 再診 8:30~11:00
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日 日曜日・祝日・第3土曜／創立記念日(6月10日)
年末年始(12月29日~1月3日)
- 代表電話番号 043-462-8811
予約変更専用 043-462-0489(平日14時~16時)
- 健康保険証(原本)、その他の公費負担受給者証(原本)を必ずご持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ
<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。

編集後記

春の風が吹いてようやく温かな季節がやってきました。先日、東京マラソンの応援に足を運んできました。第10回目を迎えた東京マラソン。世界6大マラソンの一つでもあり、まるでお祭りのような雰囲気でランナーも応援する側もみんなが一つになっていてマラソンっていいな~と感じました。4月は新しいことを始めるのにもぴったりな季節だと思います。みなさんも一緒にランニングを始めてみませんか?

(医療連携・患者支援センター 山下)



編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院 広報委員会

〒285-8741 佐倉市下志津564-1 TEL.043-462-8811(代表)

発行月：2016年4月【年4回(1・4・7・10月)発行】

URL：<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>

SAKURAdayori



東邦大学医療センター
佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

春からたくさんの臨床研修医師が
佐倉病院にきます。
～ついに臨床研修プログラム総合型枠が
フルマッチしました～

副院長(教育担当) 龍野 一郎



高齢化社会の進展に伴って、これまでの病気を中心とした医療から人を中心とする総合診療の重要性が認識され、平成16年から医師の育成に大改革が行われました。そして、新医師臨床研修制度では診療に従事しようとする医師は2年以上の総合的な臨床研修を受けなければならないと規定されました。医学部を卒業する医学生は、全国どの病院の臨床研修プログラムに応募しても良く、病院側の受け入れ希望と一致して、その病院での研修を始められることになります。このために研修医マッチング(組み合わせ決定)が医学生の応募希望と病院の採用希望を医師臨床研修マッチング協議会のコンピュータを用いて決定されています。

千葉県はご存知の通り、医療過疎県で平成24年の医師・歯科医師・薬剤師調査(厚生労働省)をみると、人口10万対医師数では全国平均226.5人にに対し、千葉県は172.7人と全国平均を大きく下回っており、全国45位と下から数えて3番目となっています。県内の二次保健医療圏別に見た場合、人口10万対医師数が1番高いのは安房保健医療圏387.2人で、これは全国に名をはせる龜田総合病院の存在が大きいと言えます。一方、1番低いのは山武長生夷隅保健医療圏100.0人と大きな地域間格差が生じています。我々佐倉市のある印旛地域の医師数は人口10万に当たり152.3と全国平均はもとより、千葉県の平均よりも少なくなっています。これから

高齢化社会を迎えて、ますます医師が必要となり、千葉県において今後の医師確保が大きな課題となっています。この意味でも若手の医師をどのようにして千葉県内に確保するかが大きな課題となっていました。

そのような中、これまで東邦大学医療センター佐倉病院における初期研修医1年目のマッチング数の最高は15名で、ここ数年は10名前後にとどまっておりました。近年、佐倉病院で行われている看護師・薬剤師・臨床検査技師・放射線技師・管理栄養士など、多職種と一体化した総合臨床研修に対する評価が高まって、今回総合型20名募集枠のすべてがマッチングいたしました。研修医のマッチング数は病院の評価に直結しているわけで、佐倉病院にとって大変嬉しいことだと思います。医学部学生たちは佐倉病院の高い専門医療だけでなく、暖かい垣根の低い職種間を超えた多職種間の触れ合いも選択の決め手になっているようです。また、千葉県全体を見渡してもここ数年、千葉県内での初期研修の質の良さが評価されており、直近の3年間で初期研修医の数が100名も増加し、全国一の伸びとなっています。

これらの初期研修医は佐倉病院だけでなく、地域研修として佐倉市内外の医療機関にも派遣され、皆様にお目にかかると思います。彼らこそは今後の高齢化社会に向かう重要な戦力で、是非暖かい目で、時には厳しくご指導をいただければと思います。

手術の必要な耳と鼻の病気



鈴木 光也 教授

症例数が多く当科が得意とする手術は、耳科手術と鼻/副鼻腔手術です。耳科手術では特に聴力改善手術に力を入れ、それまでの慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎の術式を改良するとともに、平成19年から新たに先天性外耳道閉鎖症・耳硬化症・耳小骨奇形に対する手術や、人工内耳植え込み術など難易度の高い手術も多く行ってきました。その結果、手術件数の伸びは顕著となり、年間20数例であった慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎の手術件数が現在では年間120-140例に増加しました。また耳硬化症の年間手術件数も0件から10件前後まで増加しています。人工内耳植え込み術は施設の制限から成人のみが対象ですが、毎年数例の手術を行っています。千葉県中央～北部を中心に多くの医療機関から紹介されるようになり、症例数は徐々に増えてきています。

平成24年度からは鼻/副鼻腔手術の幅が広がりました。これまで行われていた慢性副鼻腔炎や良性腫瘍に対する内視鏡下鼻・副鼻腔手術に加えて、難治性として知られる好酸球性副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻・副鼻腔手術と保存的療法の集学的治療や難治性前頭洞炎に対する前頭洞單洞化手術(DraftⅢ)など難しい手術も行ってきました。さらにアレ

耳鼻咽喉科 鈴木 光也

ルギー性鼻炎に対する手術療法や鼻涙管狭窄に対する手術も開始し、それぞれ年間20件以上の治療実績があります。

一 手術関連の三専門外来

東邦大学佐倉病院の午前外来を受診されるか、近医より紹介の電話によって予約を取ることができます。

●中耳炎外来(担当:鈴木教授)

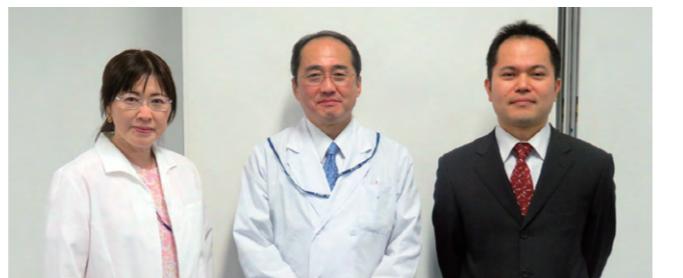
中耳炎、耳硬化症など中耳疾患の手術前後の診療を行っています。

●人工内耳・難聴外来(担当:鈴木教授)

人工内耳手術を受けられた方やいづれ人工内耳が必要となる高度難聴者の診察と検査を行っています。

●鼻/副鼻腔専門外来(担当:吉田准教授、池宮城(慶)助教)

慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、鼻涙管狭窄など鼻・副鼻腔手術を要する疾患の診療を行っています。



吉田准教授・鈴木教授・池宮城助教

2016年 市民公開講座のお知らせ (入場無料・申込不要・200席)

開催予定日	講演予定テーマ	担当
4月2日 (土)	「知っておきたい眼の病気」 白内障・緑内障・加齢黄斑変性症	〈眼科〉 前野 貴俊・他
5月14日 (土)	「生活習慣を改善し、認知症を予防しよう」 ～生活習慣病予防と地域包括ケア～	〈糖尿病・内分泌・代謝センター〉 龍野 一郎・他
7月9日 (土)	「お父さんの健康を考えよう！」 ～前立腺の病気を知ろう-前立腺肥大症・前立腺がん～	〈泌尿器科〉案 鈴木 啓悦・他
7月23日 (土)	〈地域で考えるケアと治療〉 ～身近な神経の症状～「しびれ」や「ふるえ」など	〈神経内科〉 榎原 隆次・他

※SAKURAdayori Vol.25(1月発行)でご案内した5月の講演内容が変更となりました。

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした市民公開講座を企画しております。多くの方にご参加いただき、病気の予防や早期発見、普段の生活に役立てていただければと考えております。

いずれの講座も14時から当院東棟7階・講堂で開催いたします。詳細は、テーマごとに院内掲示およびホームページなどでご案内いたします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。

♪病院職員によるミニコンサート開催のお知らせ♪

2016年6月25日(土)15時より正面ロビーにて

演奏:トランペット、弦楽アンサンブル、ハンドベルクラシックから唱歌、童謡まで幅広く演奏します。



『かかりつけ医』を持ちましょう



医療連携・患者支援センター 涩井 芳樹

と診療の質向上のため「紹介患者事前診療予約制」を導入しております。お問い合わせは、医療連携・患者支援センター(代表☎043-462-8811)へ休診日を除いた受診前日までにご連絡をお願いします。

紹介状をお持ちいただけない場合は、診療費とは別途、初診時選定療養費(3,240円)を自費でご負担いただいております。また、診療科によっては手術や入院治療を主体とした診療を行うため、紹介状をお持ちいただけない患者さんの受け入れを制限させていただいております。

なお、当病院通院中に治療方針が決定し、症状が落ち着かれた患者さんにつきましては、担当医の判断により、病状に合わせた「かかりつけ医」を中心としたお住まい近くの病院や診療所にご紹介させていただいております。

(※)地域包括ケアシステム:
団塊の世代が75歳以上となる2025年を目指し、重度な要介護状態となつても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステムのこと

救急・災害看護に取り組んでいます



救急看護認定看護師 古川 信章

内研修の講師を務め、すべての職員が緊急時に適切な看護を提供できるような教育体制を講じ、救急看護の質向上を目指した活動も行っています。さらに、当院で行われる市民公開講座に演者として参加し、市民の皆さんにも救急看護について知つていただけるような機会を設けています。

現在は、救急看護分野の中でも特に災害看護に注力して活動しています。文部科学省地震調査研究推進本部による東京湾北部地震(M7程度)の発生確率は30年以内で70%程度とされており、佐倉市では震度5強から6弱の揺れが予想されています。地震のような自然災害だけでなく、航空機事故やオリンピック開催で懸念されるテロなども災害とされ、災害時には多数の被災者に対応する必要があり、トリアージといわれる傷病の重症度を選別する技術や少ない医療資源での応急処置技術など、様々な災害看護の専門知識が必要となります。地域の中核病院として地域住民の皆さんに貢献できるよう、研修による災害看護の知識向上やDMAT(災害派遣医療チーム)についての検討など、関連する職種の職員とともに積極的な活動を行っています。

急な病気や災害時など、地域住民の皆さんのが安心して受診できる医療機関となるよう、今後も救急看護の専門知識を活かした活動に取り組んでまいります。

救急車出動件数(佐倉市・八街市・酒々井町)

